

松原剣道に入団して

松原剣道 小六 下川 優人

僕は、小三の夏から剣道を始めました。

松原剣道に通い始めて三年が過ぎようとして  
います。剣道をやってみようと思っ  
たきっか  
けは、父も小三から剣道を始め、現在も仕事  
で剣道をやっている姿を見て、自分も父みた  
いに強くなりたいと思い、松原剣道の体験に  
参加しました。

最初は、これから何が始まるのか不安でし  
た。何よりも、剣道で一番大切な気迫につな  
がる「ヤーッ」と声を出すのが恥ずかしく感  
じていたところ、先生の方が丁寧に声の出し  
方、竹刀の持ち方、足さばきについて優しく  
指導をして下さいました。学年の近い先ぱい  
方がたくさん声をかけてくれて嬉しかっ  
た。こ  
とを今でも覚えています。

入団した時から、新型コロナウイルスの影  
響でマスクを装着したまま声を出したり、動  
いたり慣れないことが多く息苦しい思いをし

ました。このままマスクがとれなかったら  
と考えていると集中できないうちもありません。  
自分だけが苦しいわけではない、他の仲間も  
同じなんだと自分に言い聞かせ、日々の練習  
に汗を流しました。

春からは、副将となり主将と二人で力を合  
わせ、六年生の一年間も頑張りとおたがい  
に約束をしました。主将、副将は、チームの  
中でリーダーシップを発揮し、チームメイトの  
やる気や意欲を高め、けいこや試合中にチー

ムをまとめていかなければなりません。一人  
は一人では生きていけないとよく耳にしま  
すが、剣道も相手がいなければ練習も試合も  
できません。僕がこまっっている時に皆に助け  
てもらいました。だから僕も皆を支えて助け  
あっていききたいと思えます。

沢山の経験から少しずつ自信もついてきま  
したが、僕は体が小さいので、大きな相手に  
は気迫で負けそうになる時があります。まだ  
まだ僕には足りないものがあるときやしい気

持ちがわいてきます。そんな時、先生方が、  
大きな声が出ているね。今日はいい試合  
だったよ。とたくさんほめてくださったり、  
丁寧に指導をしてくださるので、少しずつ  
自信もついてのりこえられるようになった思  
います。

南先生から教えていたただいた言葉がありま  
す。「百里の道は九十九里をもつて半ばとな  
す」です。この言葉は、百里の道を九十九里  
まできてあきらめてしまつたら、半ばであきら  
めるのと同じだ、という意味です。剣道だ  
けでなく、何事においても心の中にしっかり  
持つて行動しようと思います。

春からは中学生です。これからも剣道を続  
けるという目標を持って頑張っていこうと思  
います。